

## 第Ⅲ部 調査結果の詳細

### 【報告書を読む際の注意】

- (注1) 小数第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が全体の計に一致しないことがある。
- (注2) 「n」は「number of case」の略で、質問に対する回答者の総数を表す。
- (注3) 図中「0」、表中「-」は皆無を示す。
- (注4) 図表中の選択肢は、回答率の高い順に並び替えている場合がある。また、表記の語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (注5) 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせて分析する場合に用いる。また、この場合の比率は実際の回答者数の合計から算出しているため、個々の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- (注6) 数値間の比較で大小関係を示す場合は、個々の選択肢の比率の差を取り、「…ポイント増（減）」等という表現を使っている。
- (注7) 男女の18～19歳などのサンプル数の少ない属性については参考値であり、グラフ上で数値が高いものでも有意差がなく、分析で触れていない場合がある。
- (注8) 【地域別の状況】【性・年代別の状況】の図表では、地域や性・年代が不詳の者がいるため、内訳の合計が全体の回答者数と異なっている。



# 第1章 食・食育【問1～問9】

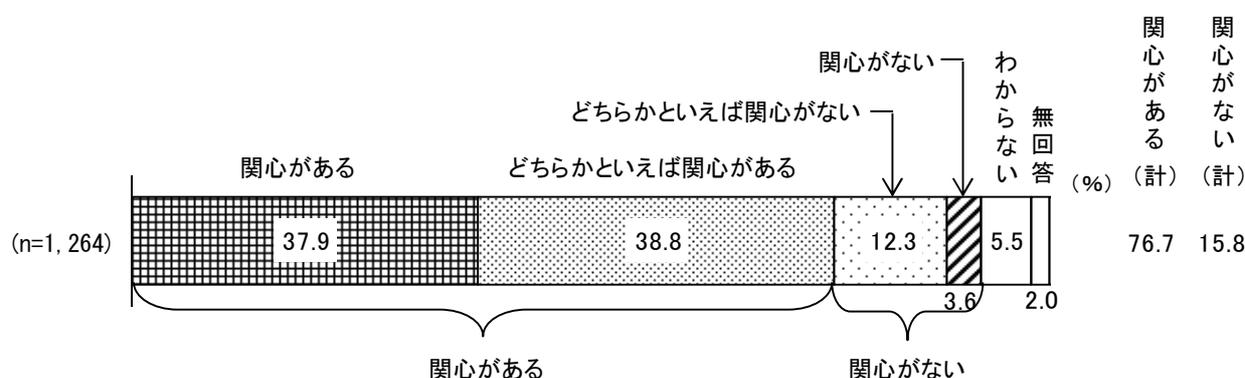
## 1 食育への関心【問1】

### 【全体の状況】

「食育」に関心があるか尋ねたところ、「関心がある」(37.9%)と「どちらかといえば関心がある」(38.8%)を合わせた《関心がある》は76.7%であった。

一方、「関心がない」(3.6%)と「どちらかといえば関心がない」(12.3%)を合わせた《関心がない》は15.8%であった。(図表1-1-1)

図表1-1-1 食育への関心



### 【地域別の状況】

地域別にみると、《関心がある》は、湘南(83.9%)と県西(82.6%)がともに8割台であった。一方、《関心がない》は、県央が21.3%で最も多かった。(図表1-1-2)

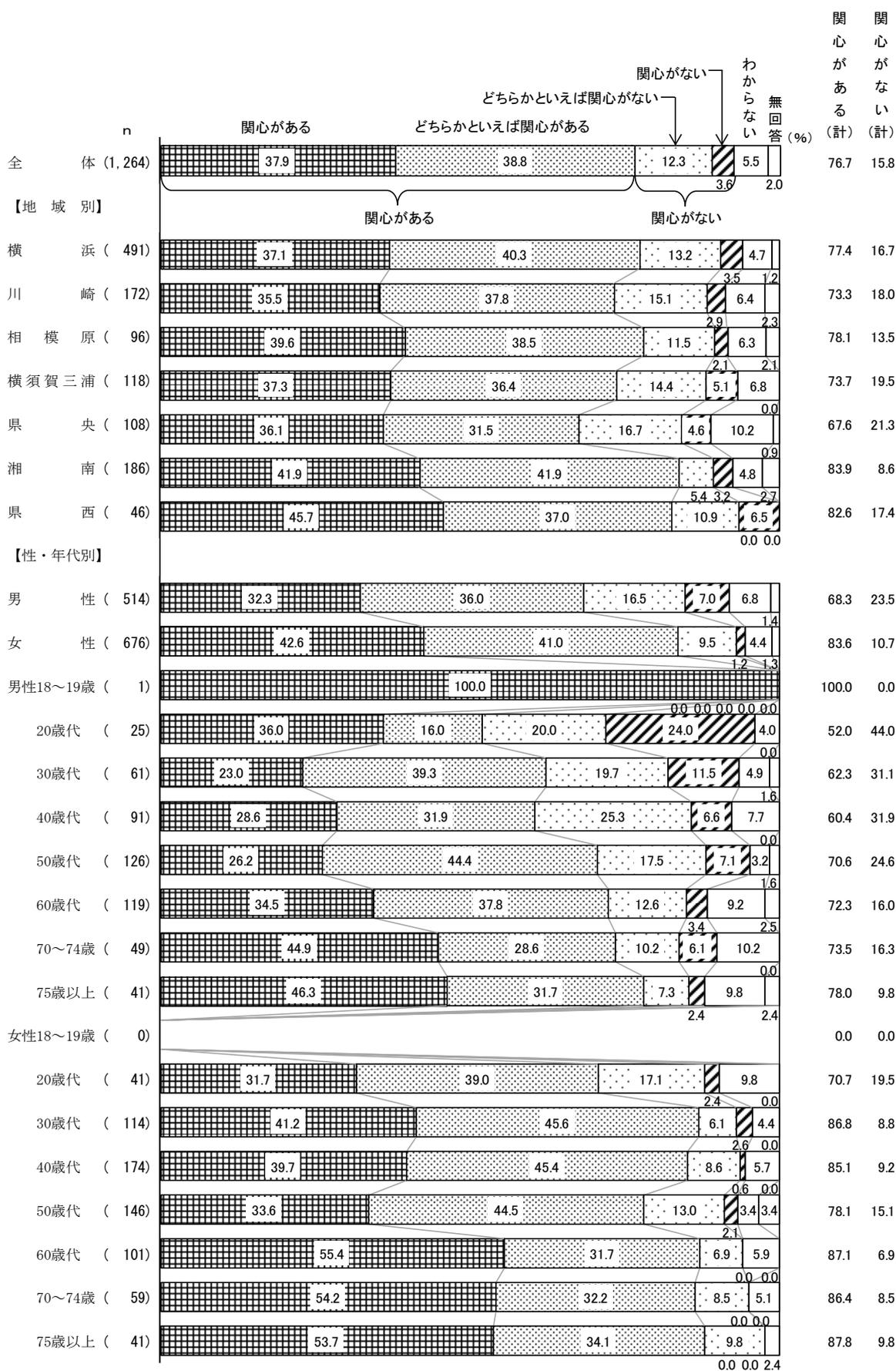
### 【性・年代別の状況】

性別にみると、《関心がある》は、女性(83.6%)が男性(68.3%)を15.3ポイント上回った。

性・年代別にみると、《関心がある》は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、女性の75歳以上が87.8%で最も多かった。

一方、《関心がない》は、サンプル数の少ない男性の20歳代を除くと、男性の30歳代(31.1%)・40歳代(31.9%)がともに約3割であった。(図表1-1-2)

図表1-1-2 食育への関心—地域別、性・年代別



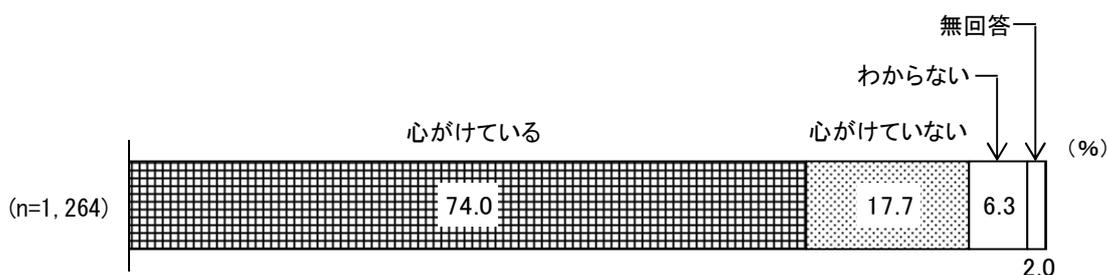
## 2 健康的な食事内容の心がけ【問2】

### 【全体の状況】

毎日の食生活で、主食・主菜・副菜を組み合わせた健康的な食事内容を心がけているか尋ねたところ、「心がけている」が74.0%であった。

一方、「心がけていない」は、17.7%であった。(図表1-2-1)

図表1-2-1 健康的な食事内容の心がけ



### 【地域別の状況】

地域別にみると、「心がけている」は、湘南が81.7%で最も多く、次いで県西が78.3%であった。

一方、「心がけていない」は、川崎が23.3%で最も多かった。(図表1-2-2)

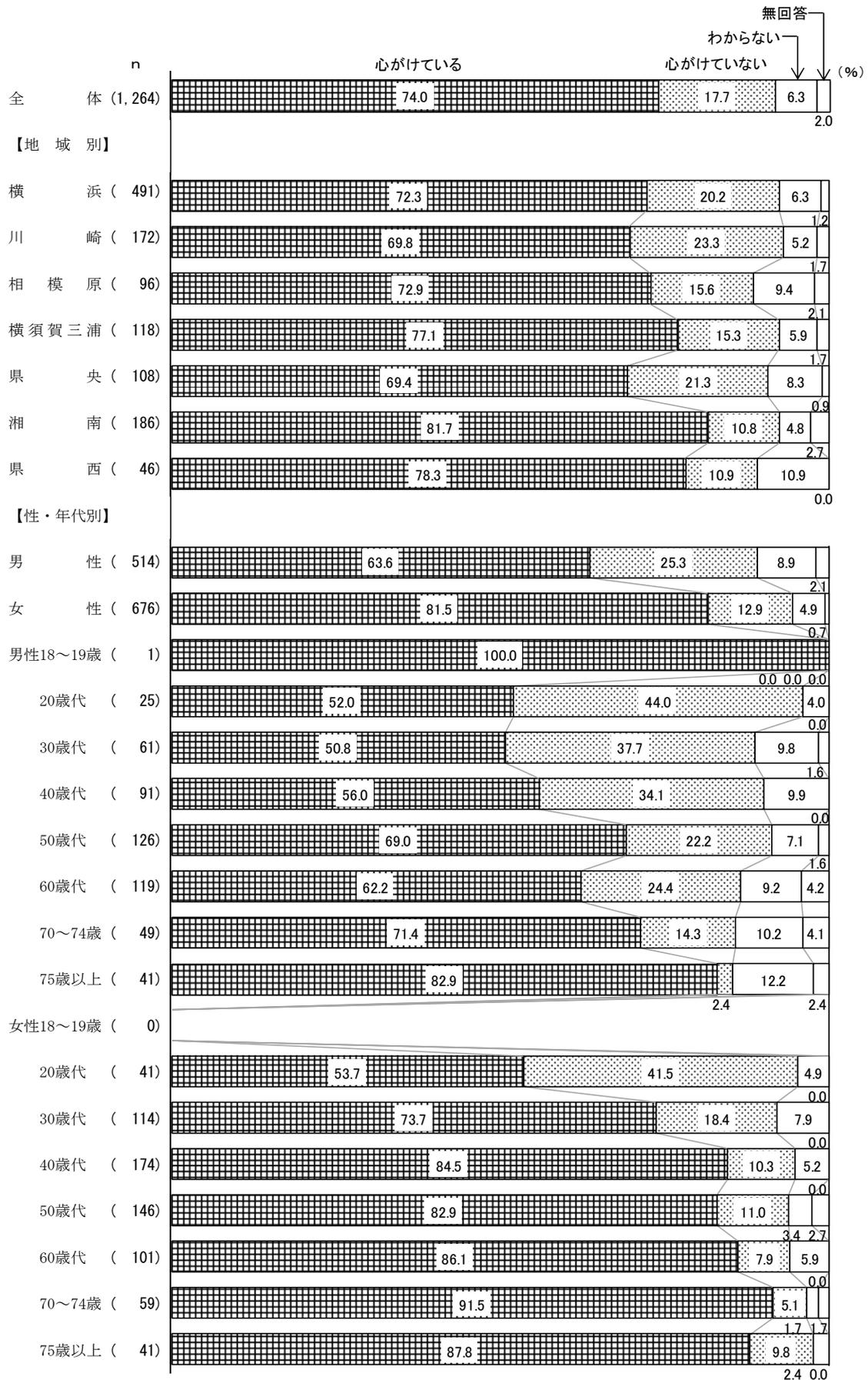
### 【性・年代別の状況】

性別にみると、「心がけている」は、女性(81.5%)が男性(63.6%)を17.9ポイント上回った。

性・年代別にみると、「心がけている」は、サンプル数の少ない男性の18~19歳を除くと、女性の70~74歳が91.5%で最も多かった。

一方、「心がけていない」は、サンプル数の少ない男性の20歳代を除くと、女性の20歳代が41.5%で最も多かった。(図表1-2-2)

図表1-2-2 健康的な食事内容の心がけ—地域別、性・年代別



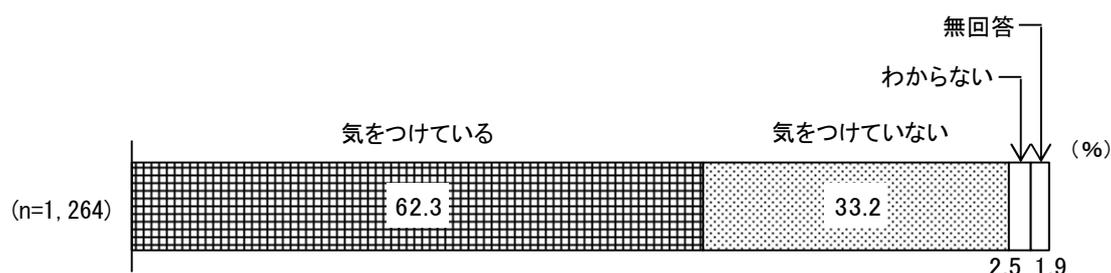
### 3 就寝前に食事をとらないことへの意識【問3】

#### 【全体の状況】

就寝前2時間以内に食事や夜食をとらないよう気をつけているか尋ねたところ、「気をつけている」が62.3%であった。

一方、「気をつけていない」は、33.2%であった。(図表1-3-1)

図表1-3-1 就寝前に食事をとらないことへの意識



#### 【地域別の状況】

地域別にみると、「気をつけている」は、県西が73.9%で最も多く、次いで県央が68.5%であった。

一方、「気をつけていない」は、横浜が36.9%で最も多く、次いで横須賀三浦が35.6%であった。

(図表1-3-2)

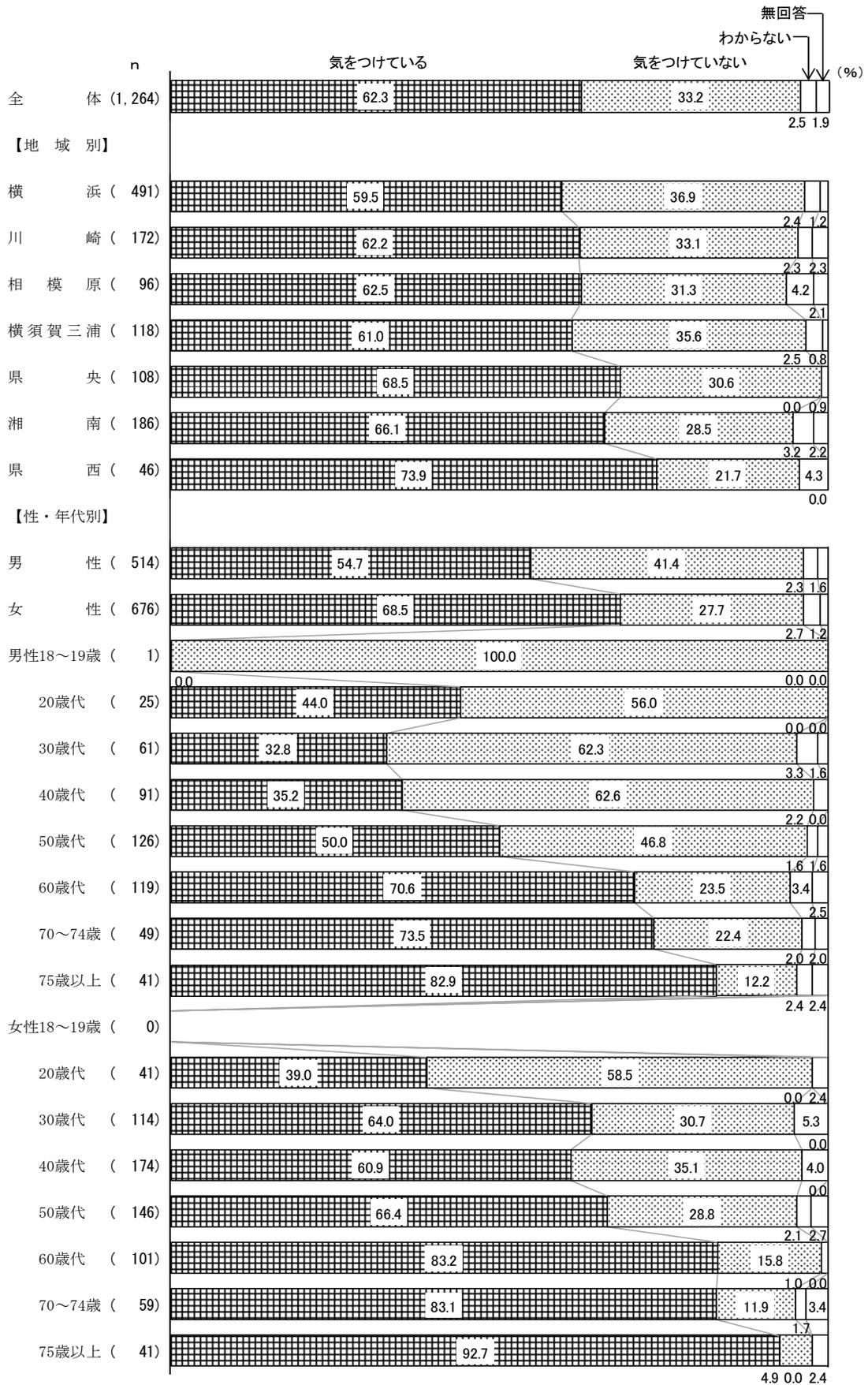
#### 【性・年代別の状況】

性別にみると、「気をつけている」は、女性(68.5%)が男性(54.7%)を13.8ポイント上回った。

性・年代別にみると、「気をつけている」は、女性の75歳以上が92.7%で最も多かった。

一方、「気をつけていない」は、サンプル数の少ない男性の18~19歳を除くと、男性の30歳代(62.3%)・40歳代(62.6%)がともに6割台であった。(図表1-3-2)

図表1-3-2 就寝前に食事をとらないことへの意識—地域別、性・年代別

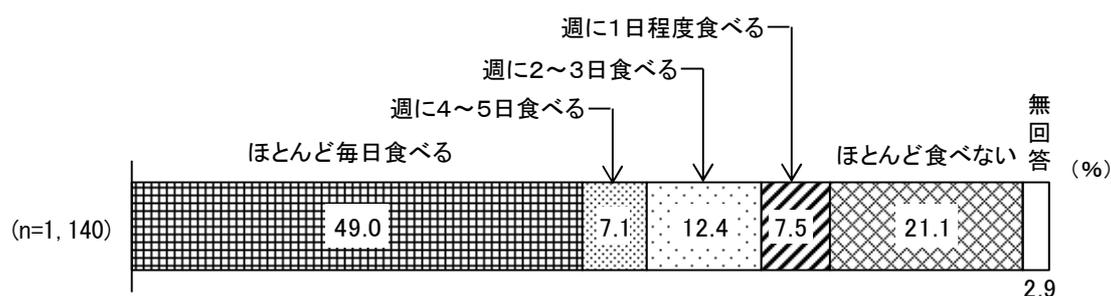


#### 4 朝食を同居の方と食べる頻度【問4-1】

##### 【全体の状況】

複数人でお住まいの1,140人に、朝食を同居の方と食べる頻度を尋ねたところ、「ほとんど毎日食べる」が49.0%で最も多く、次いで「ほとんど食べない」が21.1%であった。(図表1-4-1)

図表1-4-1 朝食を同居の方と食べる頻度



##### 【地域別の状況】

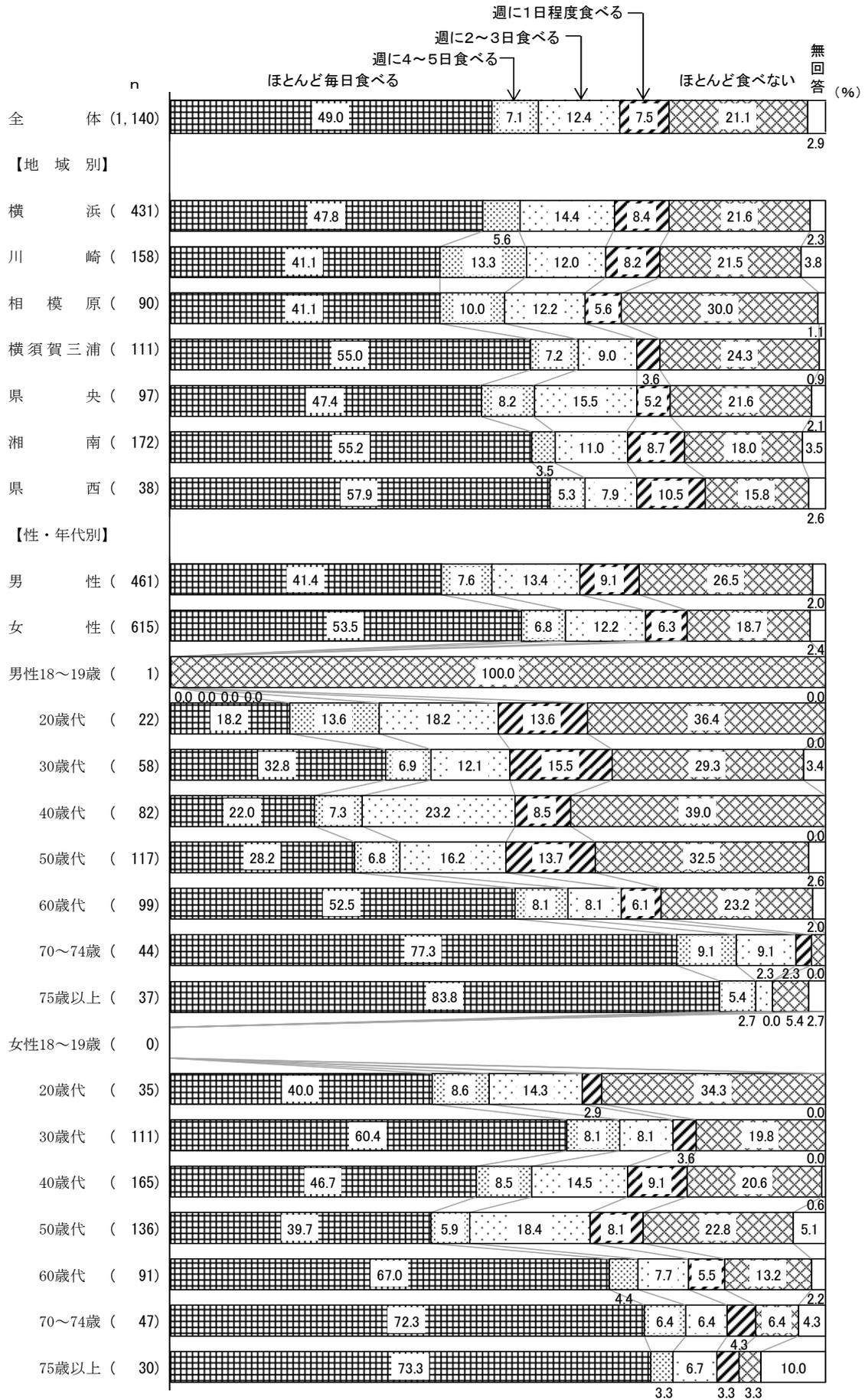
地域別にみると、「ほとんど毎日食べる」は、県西が57.9%で最も多かった。また、「ほとんど食べない」は、相模原が30.0%で最も多かった。(図表1-4-2)

##### 【性・年代別の状況】

性別にみると、「ほとんど毎日食べる」は、女性(53.5%)が男性(41.4%)を12.1ポイント上回った。

性・年代別にみると、「ほとんど毎日食べる」は、男女ともに75歳以上(男性83.8%、女性73.3%)が最も多かった。また、「ほとんど食べない」は、サンプル数の少ない男性の18~19歳を除くと、男性の40歳代が39.0%で最も多かった。(図表1-4-2)

図表1-4-2 朝食を同居の方と食べる頻度—地域別、性・年代別

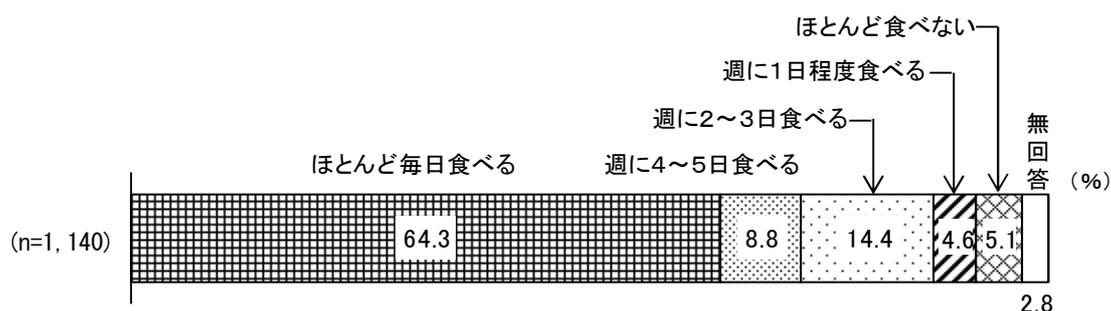


## 5 夕食を同居の方と食べる頻度【問4-2】

### 【全体の状況】

複数人でお住まいの1,140人に、夕食を同居の方と食べる頻度を尋ねたところ、「ほとんど毎日食べる」が64.3%で最も多く、次いで「週に2～3日食べる」が14.4%であった。（図表1-5-1）

図表1-5-1 夕食を同居の方と食べる頻度



### 【地域別の状況】

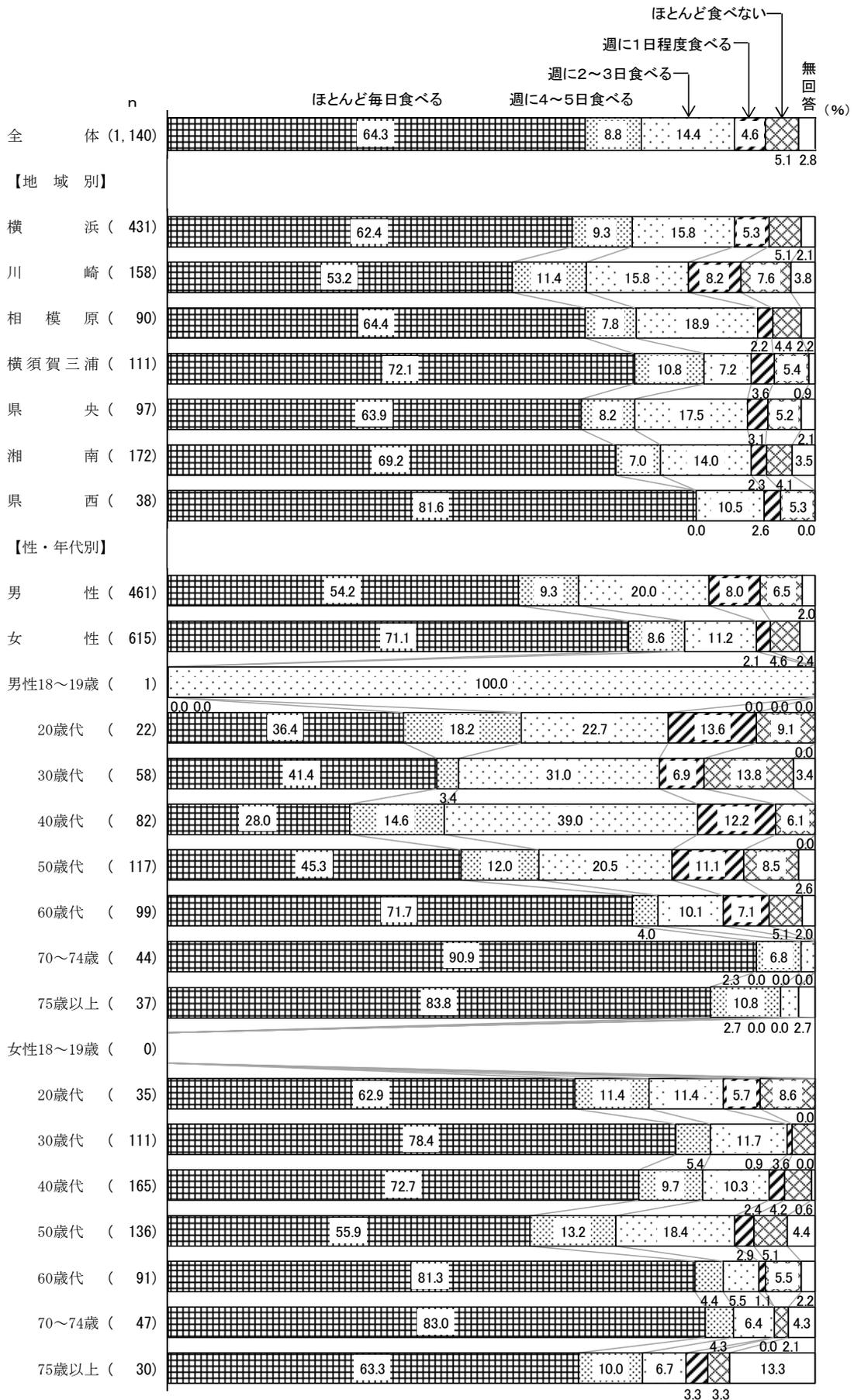
地域別にみると、「ほとんど毎日食べる」は、県西が81.6%で最も多かった。また、「週に2～3日食べる」は、相模原が18.9%で最も多かった。（図表1-5-2）

### 【性・年代別の状況】

性別にみると、「ほとんど毎日食べる」は、女性(71.1%)が男性(54.2%)を16.9ポイント上回った。

性・年代別にみると、「ほとんど毎日食べる」は、男性の70～74歳が90.9%で最も多かった。また、「週に2～3日食べる」は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、男性の30歳代(31.0%)・40歳代(39.0%)がともに3割を超えた。（図表1-5-2）

図表1-5-2 夕食を同居の方と食べる頻度—地域別、性・年代別

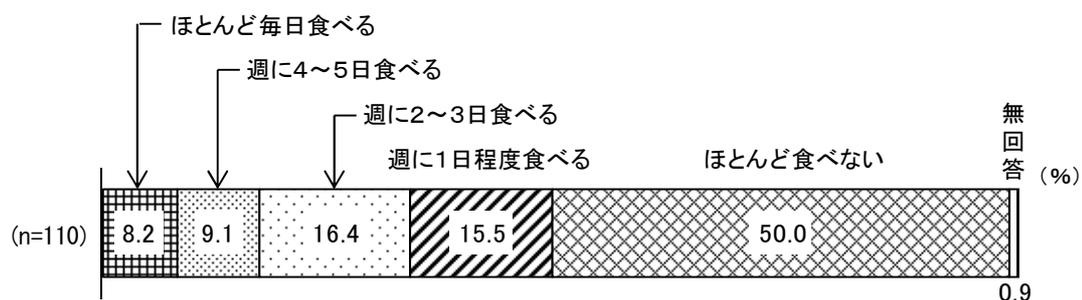


## 6 昼食を仲間や友人など複数人で食べる頻度【問5-1】

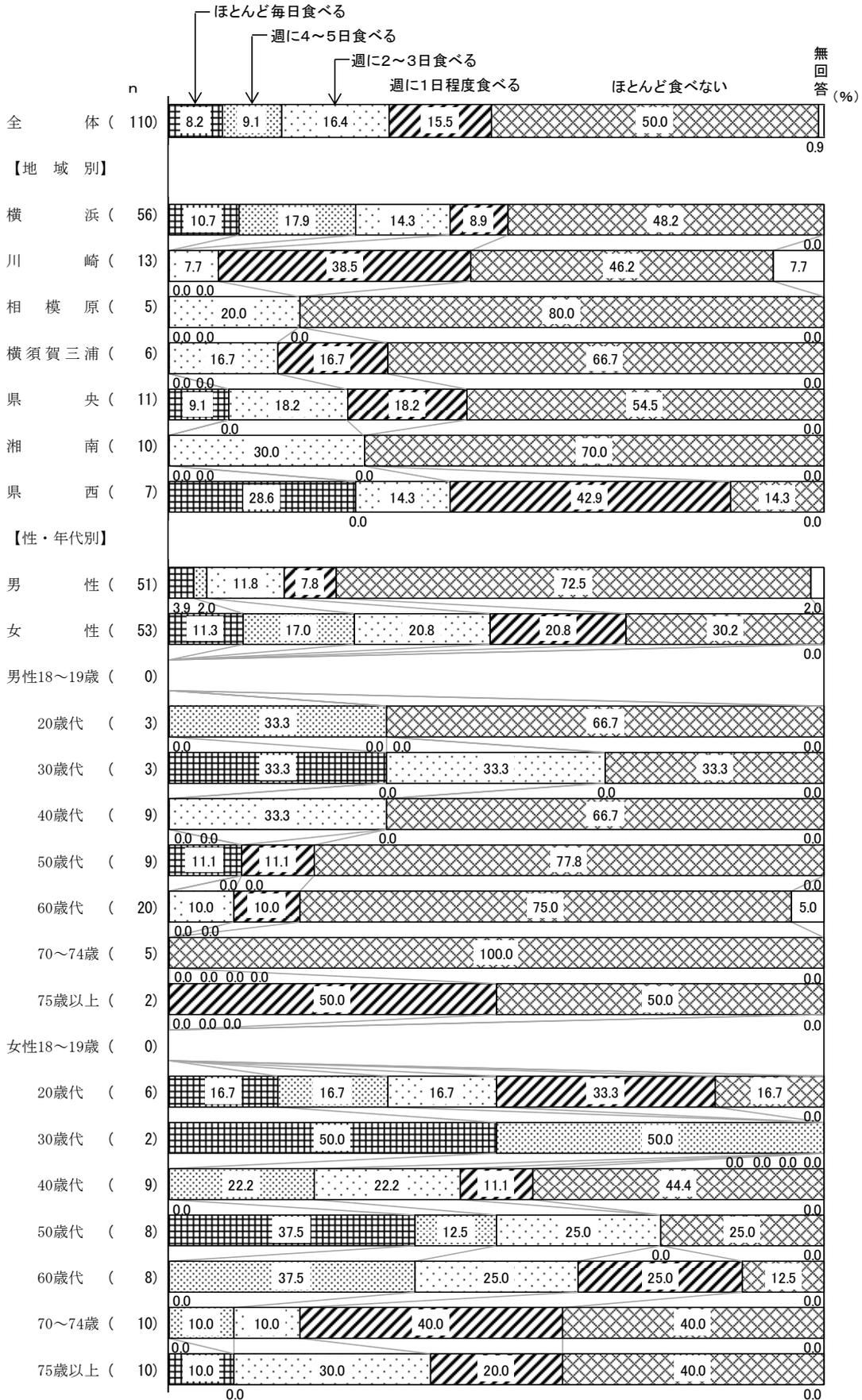
### 【全体の状況】

一人暮らしの110人に、昼食を仲間や友人など、複数人で食べる頻度を尋ねたところ、「ほとんど食べない」が50.0%で最も多く、「週に2～3日食べる」(16.4%)と「週に1日程度食べる」(15.5%)が1割台で続いた。(図表1-6-1)

図表1-6-1 昼食を仲間や友人など複数人で食べる頻度



図表1-6-2 屋食を仲間や友人など複数人で食べる頻度—地域別、性・年代別  
(サンプル数が少ないため参考)

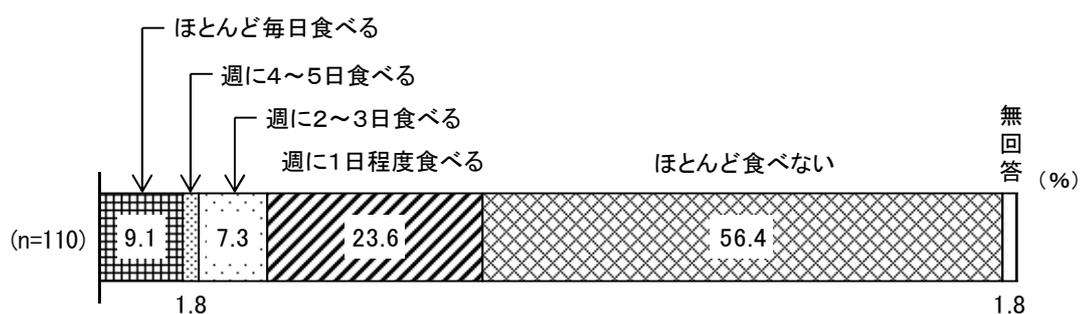


## 7 夕食を仲間や友人など複数人で食べる頻度【問5-2】

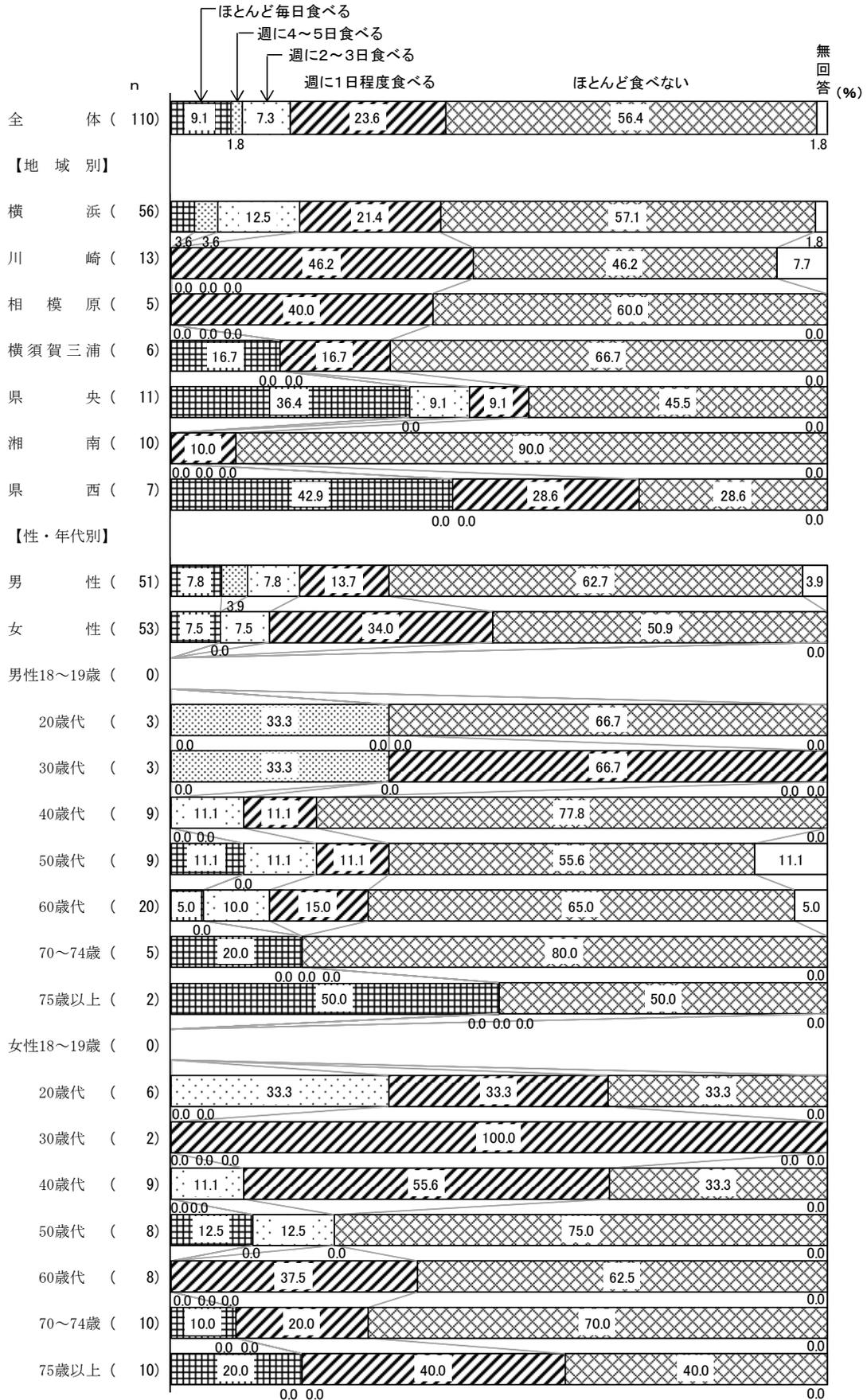
### 【全体の状況】

一人暮らしの110人に、夕食を仲間や友人など、複数人で食べる頻度を尋ねたところ、「ほとんど食べない」が56.4%で最も多く、次いで「週に1日程度食べる」が23.6%であった。(図表1-7-1)

図表1-7-1 夕食を仲間や友人など複数人で食べる頻度



図表1-7-2 夕食を仲間や友人など複数人で食べる頻度—地域別、性・年代別  
(サンプル数が少ないため参考)



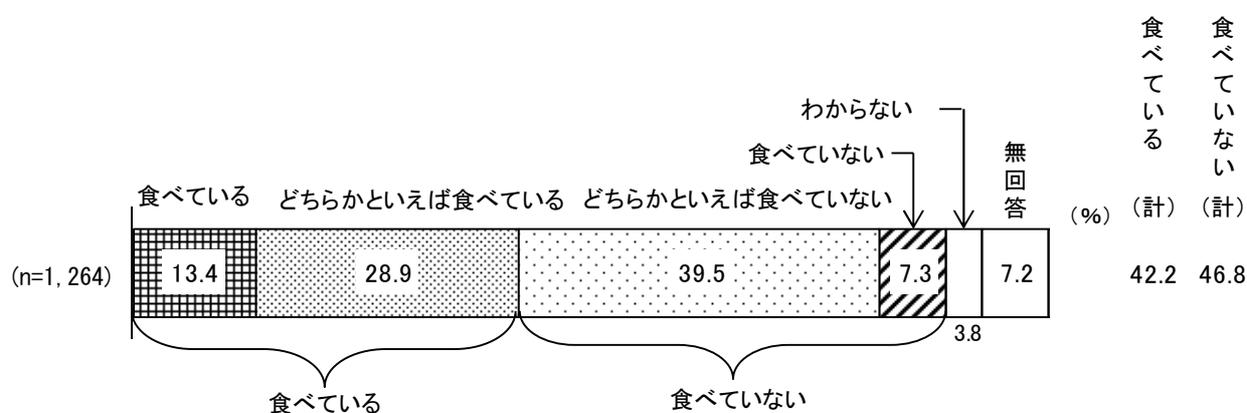
## 8 ゆっくりよく噛んで食べることへの意識【問6】

### 【全体の状況】

ゆっくりよく噛んで食べているか尋ねたところ、「食べている」(13.4%)と「どちらかといえば食べている」(28.9%)を合わせた《食べている》は42.2%であった。

一方、「食べていない」(7.3%)と「どちらかといえば食べていない」(39.5%)を合わせた《食べていない》は46.8%であった。(図表1-8-1)

図表1-8-1 ゆっくりよく噛んで食べることへの意識



### 【地域別の状況】

地域別にみると、《食べている》は、湘南が50.5%で最も多く、次いで横須賀三浦が49.2%であった。

一方、《食べていない》は、横浜(51.7%)と川崎(50.6%)がともに5割を超えた。(図表1-8-2)

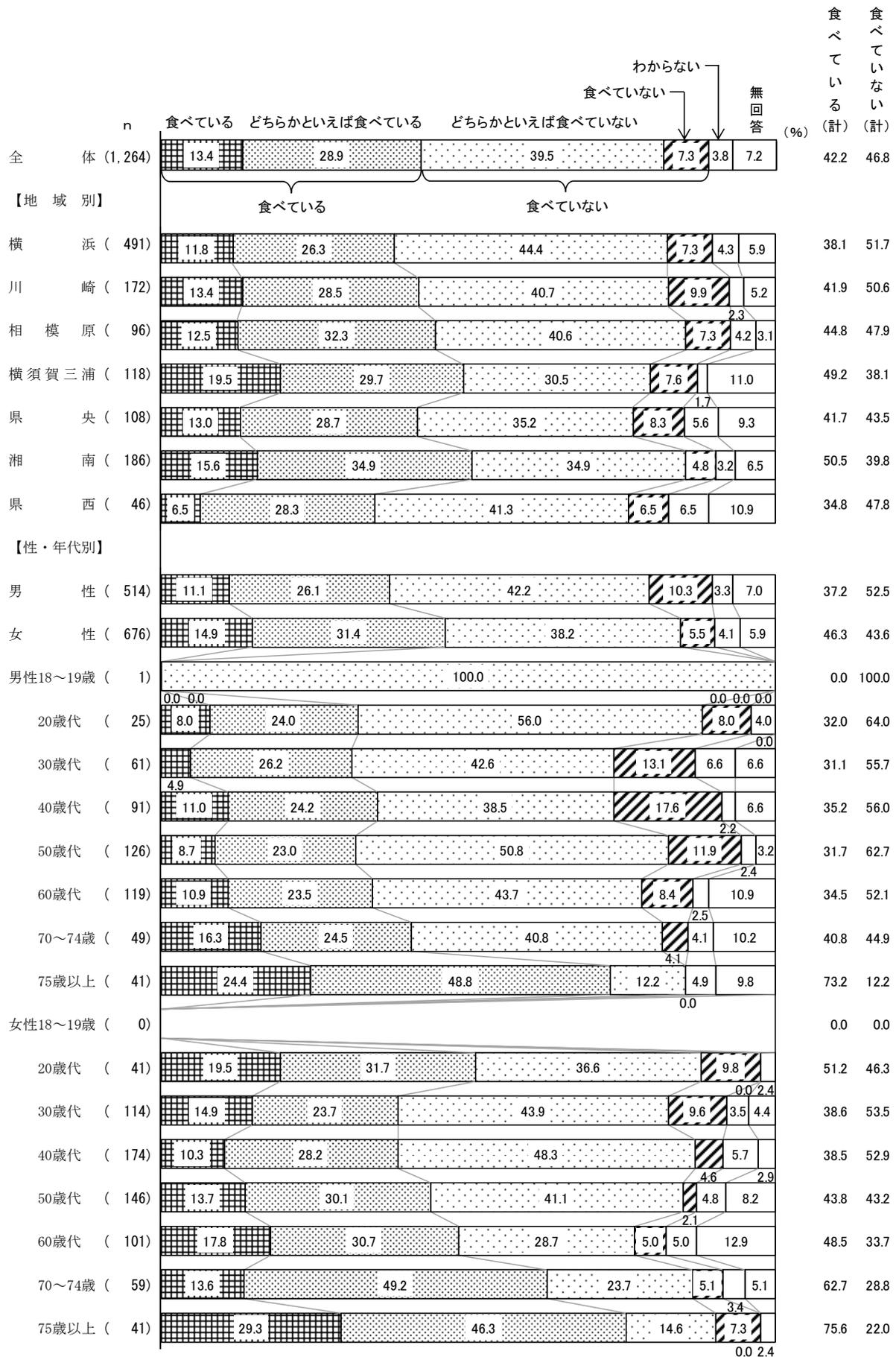
### 【性・年代別の状況】

性別にみると、《食べている》は、女性(46.3%)が男性(37.2%)を9.1ポイント上回った。

性・年代別にみると、《食べている》は、男女ともに75歳以上(男性73.2%、女性75.6%)が7割台で最も多かった。

一方、《食べていない》は、サンプル数の少ない男性の18~19歳・20歳代を除くと、男性の50歳代が62.7%で最も多かった。(図表1-8-2)

図表1-8-2 ゆっくりよく噛んで食べることへの意識—地域別、性・年代別

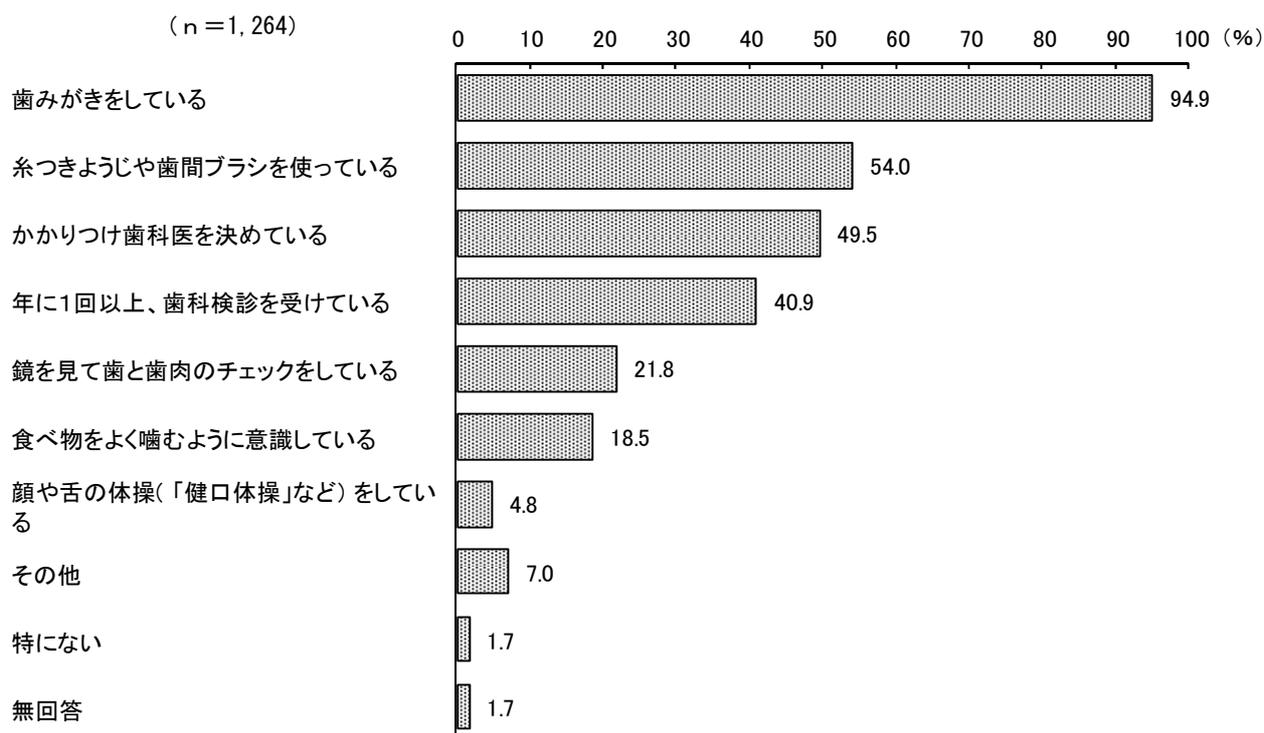


## 9 歯と口の健康を保つために気をつけていること【問7】

### 【全体の状況】

歯と口の健康を保つために気をつけていることを複数回答で尋ねたところ、「歯みがきをしている」が94.9%で最も多く、「糸つきようじや歯間ブラシを使っている」(54.0%)と「かかりつけ歯科医を決めている」(49.5%)が続いた。(図表1-9-1)

図表1-9-1 歯と口の健康を保つために気をつけていること（複数回答）



### 【地域別の状況】

地域別にみると、「歯みがきをしている」は、県西が100.0%で最も多く、次いで湘南が97.3%であった。(図表1-9-2)

### 【性・年代別の状況】

性別にみると、「糸つきようじや歯間ブラシを使っている」は、女性(58.9%)が男性(47.5%)を11.4ポイント上回った。

性・年代別にみると、「かかりつけ歯科医を決めている」は、男性の75歳以上(75.6%)、女性の70~74歳(74.6%)・75歳以上(70.7%)がそれぞれ7割を超えた。(図表1-9-2)

図表1-9-2 歯と口の健康を保つために気をつけていること（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	歯みがきをしている	糸つきようじや歯間ブラシを使っている	かかりつけ歯科医を決めている	年に1回以上、歯科検診を受けている	鏡を見て歯と歯肉のチェックをしている	食べ物をよく噛むように意識している	顔や舌の体操（「健口体操」など）をしている	その他	特にない	無回答
全 体	1,264	94.9	54.0	49.5	40.9	21.8	18.5	4.8	7.0	1.7	1.7
【地 域 別】											
横 浜	491	95.1	55.4	46.6	43.2	18.7	15.7	4.7	8.1	2.0	1.0
川 崎	172	93.0	54.7	45.9	39.5	24.4	19.2	5.8	7.0	1.7	1.7
相 模 原	96	95.8	54.2	50.0	39.6	18.8	11.5	4.2	10.4	3.1	-
横 須 賀 三 浦	118	93.2	51.7	53.4	31.4	28.8	22.9	3.4	4.2	2.5	0.8
県 央	108	95.4	48.1	48.1	38.0	26.9	15.7	2.8	4.6	1.9	0.9
湘 南	186	97.3	53.8	58.6	45.2	23.1	22.6	5.4	7.5	0.5	2.2
県 西	46	100.0	56.5	54.3	39.1	17.4	21.7	10.9	4.3	-	-
【性・年代別】											
男 性	514	92.8	47.5	43.2	34.8	13.6	16.5	3.9	7.6	2.9	1.4
女 性	676	97.0	58.9	54.3	45.9	28.6	18.8	5.8	7.1	0.9	0.9
男性18～19歳	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	25	100.0	28.0	16.0	20.0	20.0	8.0	4.0	4.0	4.0	-
30歳代	61	90.2	36.1	19.7	23.0	8.2	8.2	4.9	13.1	6.6	1.6
40歳代	91	89.0	53.8	30.8	38.5	13.2	13.2	2.2	12.1	4.4	-
50歳代	126	94.4	43.7	39.7	27.0	15.9	12.7	1.6	4.8	1.6	1.6
60歳代	119	95.8	54.6	54.6	41.2	16.0	18.5	5.9	8.4	2.5	1.7
70～74歳	49	91.8	57.1	63.3	46.9	10.2	22.4	2.0	2.0	2.0	2.0
75歳以上	41	87.8	43.9	75.6	46.3	9.8	41.5	9.8	4.9	-	2.4
女性18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	41	100.0	24.4	24.4	26.8	34.1	22.0	7.3	12.2	-	-
30歳代	114	97.4	57.9	41.2	40.4	27.2	14.9	3.5	8.8	0.9	-
40歳代	174	97.7	64.9	50.6	46.0	27.6	8.6	2.3	9.8	1.1	-
50歳代	146	96.6	59.6	55.5	45.9	28.8	18.5	6.2	8.2	1.4	2.7
60歳代	101	96.0	65.3	67.3	47.5	32.7	19.8	4.0	3.0	-	1.0
70～74歳	59	94.9	47.5	74.6	52.5	22.0	33.9	11.9	1.7	-	1.7
75歳以上	41	97.6	68.3	70.7	65.9	29.3	46.3	19.5	-	2.4	-

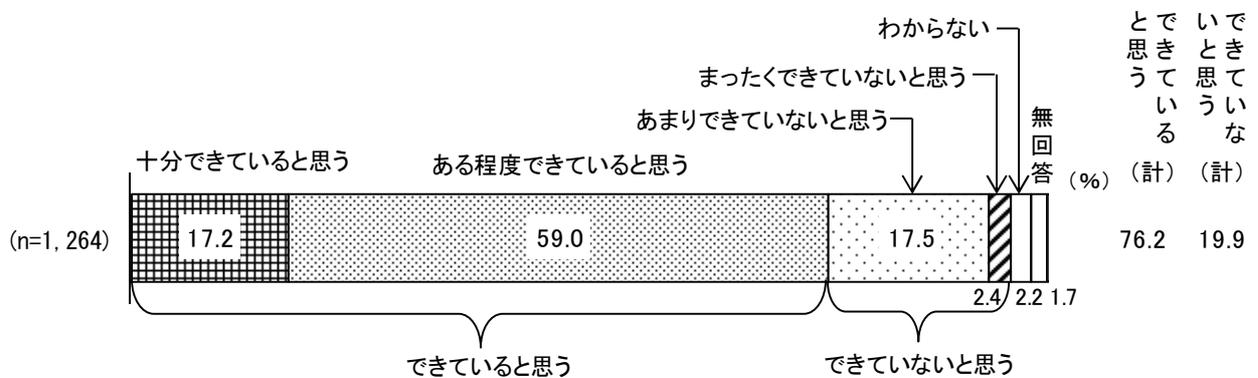
## 10 食事のマナーを正しくできていることへの意識【問8】

### 【全体の状況】

食事のマナー（いただきます・ごちそうさまのあいさつ、はしの持ち方、料理の並べ方など）を正しくできていると思うか尋ねたところ、「十分できていると思う」（17.2%）と「ある程度できていると思う」（59.0%）を合わせた《できていると思う》は76.2%であった。

一方、「まったくできていないと思う」（2.4%）と「あまりできていないと思う」（17.5%）を合わせた《できていないと思う》は19.9%であった。（図表1-10-1）

図表1-10-1 食事のマナーを正しくできていることへの意識



### 【地域別の状況】

地域別にみると、《できていると思う》は、川崎と相模原がともに80.2%であった。一方、《できていないと思う》は、県央が25.0%で最も多かった。（図表1-10-2）

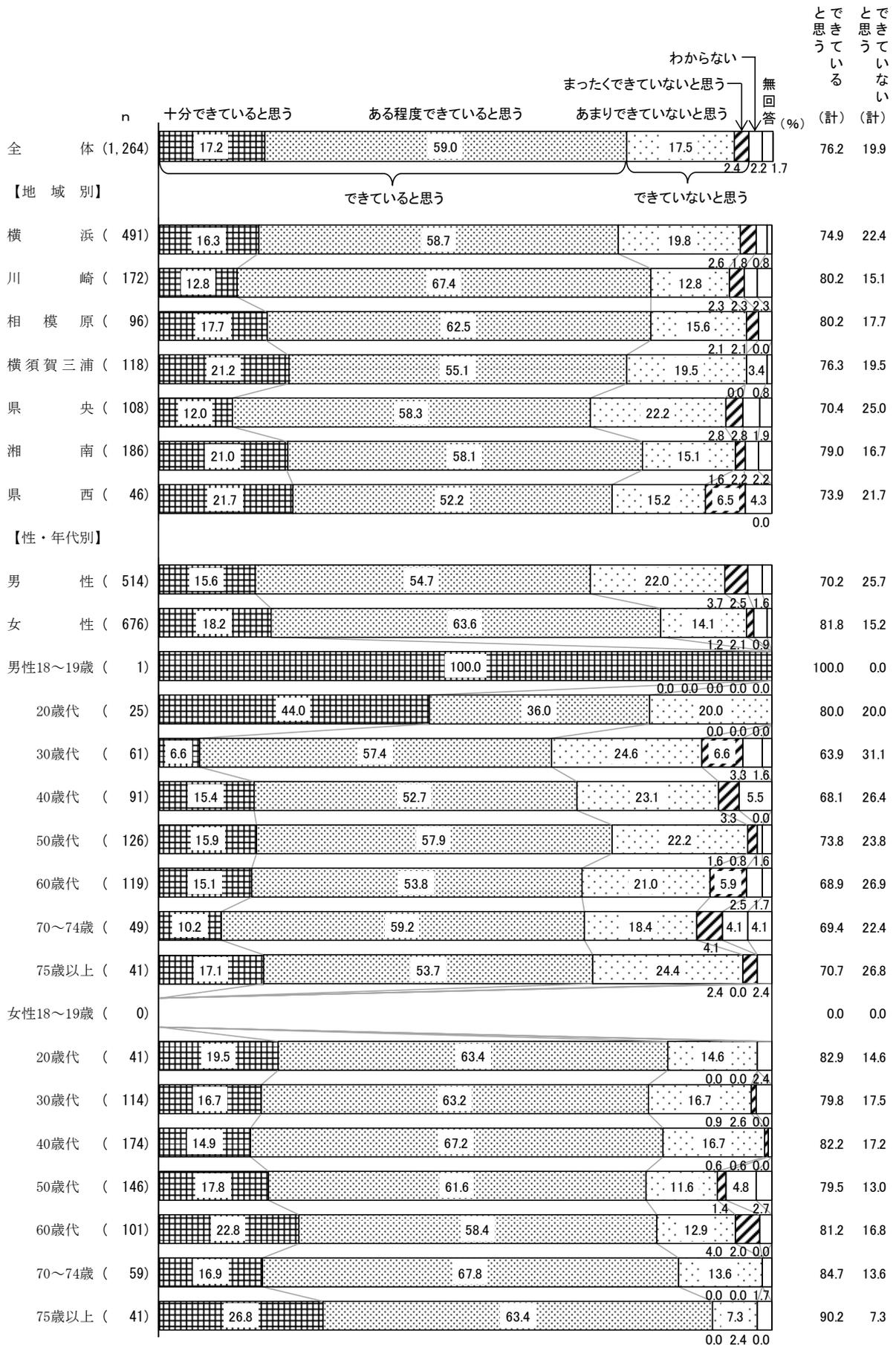
### 【性・年代別の状況】

性別にみると、《できていると思う》は、女性（81.8%）が男性（70.2%）を11.6ポイント上回った。

性・年代別にみると、《できていると思う》は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、女性の75歳以上が90.2%で最も多かった。

一方、《できていないと思う》は、男性の30歳代が31.1%で最も多かった。（図表1-10-2）

図表1-10-2 食事のマナーを正しくできていることへの意識—地域別、性・年代別

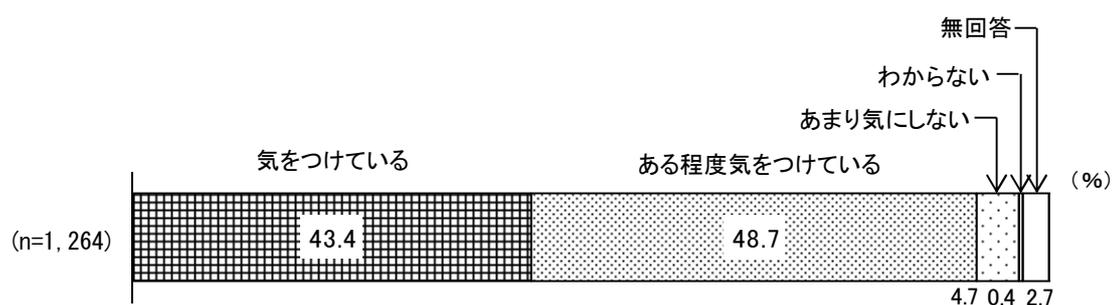


## 11 食べ物を無駄にしないことへの意識【問9】

### 【全体の状況】

食べ物を無駄にしないよう食べ残しや買いすぎなどに気をつけているか尋ねたところ、「ある程度気をつけている」が48.7%で最も多く、次いで「気をつけている」が43.4%であった。(図表1-11-1)

図表1-11-1 食べ物を無駄にしないことへの意識



### 【地域別の状況】

地域別にみると、「ある程度気をつけている」は、横須賀三浦（56.8%）と県央（51.9%）がともに5割を超えた。(図表1-11-2)

### 【性・年代別の状況】

性別にみると、「ある程度気をつけている」は、女性（52.8%）が男性（45.1%）を7.7ポイント上回った。

性・年代別にみると、「気をつけている」は、男性の75歳以上が53.7%で最も多かった。

(図表1-11-2)

図表1-11-2 食べ物を無駄にしないことへの意識—地域別、性・年代別

